



編集・発行 カトリック幟町教会 (宣教企画部 広報係)
 チームミニストリー：後藤正史神父(モデラートル), アルベルト神父, 豊田尚臣神父
 〒730-0016 広島市中区幟町4番42号
 TEL (082)221-0621 FAX (082)221-8486
<http://www.nobori-cho-catholic.com>

2012年12月号 No.450

ホップパウロ年、**ステップ**司祭年を受け継ぎ、**ジャンプ**信仰年へ

主と共に働くわれらは 主と共にその実りを味わう

シメオン後藤正史神父

クリスマス、主の降誕の祝いが近づいてきました。日本の政治、経済、社会の状況、どれを取ってもメルト・ダウン(溶解)しているとしかいいようがありません。だからこそ、わたしたちは闇に光をもたらされた神の愛に信頼しながら、希望をもって歩んでいきます。選挙には足を運びましょう。敵対心をあおるような刺激的な発言にまどわされないよう注意しましょう。

さて、信仰年と聞けば、おぼろげながらも〇〇年という表現、どこかなじみ深く聞こえてくるのではないのでしょうか。広島教区では戦後・被爆50周年の1995年を「広島教区平和年」と定め、過去を心に刻み、平和のために働くことを教区の召命と位置付ける一年を過ごしました。また、1999年クリスマスから2001年主の公現(1月7日)までを「大聖年」として、全世界の

教会が祝いました。すべての人が回心して、互いにゆるし合い、受け入れ合うこと、さらには自分自身をゆるし、受け入れることをめざす和解の年、回心の年となるよう努めました。

教皇ベネディクト16世が着座(2005年4月)以来、「パウロ年」(2008年6月28日～2009年6月29日)、「司祭年」(2009年6月19日～2010年6月19日)、そしてこの度の「信仰年」(2012年10月11日～2013年11月24日)を宣布し、全世界の教会が一つのテーマを中心して、心を一つにして本物の宣教者、信仰者となるよう、わたしたちを励まし導いておられます。

パウロ生誕2000年を記念して始まったパウロ年。パウロはキリストのために生き、キリストのために働きました。また、キリストのために苦しみ、

キリストのために死んだのでした。

司祭のかがみ、マリア・ピアンネ没後150周年を記念して始まった司祭年。司祭の奉仕職、霊性の核心は聖体にあります。ピアンネの模範に促されて、すべての司祭が、司教との一致、司祭どうしの一致、信徒との一致をあかしするよう招かれています。

そして、信仰年。わたしたちはこの一年を、教皇ベネディクト16世の意向に従い、第二バチカン公会議開始(1962年)以来、教会が打ち出した信仰の刷新と50年の日本の福音宣教の歩みを確認し、推進する一年に取り組んでいきましょう。

第二バチカン公会議にしる、パウロ年、司祭年、信仰年、それぞれの根底にあるものはわたしたちの信仰の原

点に立ち返り、教会内外の人々の(悩み、苦しみ)の現実近づき、関わり、寄り添う道を選び取ろうという一貫した姿勢です。わたしたちには、まず変わると、世界は変わる、変えられるという絶対的確信があります。どんなに苦しい状況に置かれたとしても、あきらめや絶望やおそれから自由という信仰はキリスト者を不正義や抑圧に立ち上がる力を生み出します。あの世、この世を超えた神の国実現のために、キリスト者は呼ばれています。

広島教区は 2006 年宣教司牧の司教宣言(平和、きょうどう、養成の三本柱:2012 年改訂)の基本方針に基づき、宣教司牧活動をしてきましたが、それを一層強化するために、前田司教の強い意向のもと、青少年育成委員会、召命促進委員会が 2012 年発足しました。日本版第二バチカン公会議と言える NICE I (福音宣教推進全国会議、1987)「共に喜びをもって生きよう」、広島教区のモットー「平和の使徒となろう」の基盤として、聖書(みことば)、ミサを通した祈り、識別を欠かすことはできません。神としっかりつながる中で、人々ともしっかりつながりながら、この世に派遣された使命を実践していきましょう。

新任のご挨拶

「聖体授与の臨時の奉仕者」

聖体授与の臨時の奉仕者(聖体奉仕者)の任命式が 11 月 11 日に観音教会で行われました。

熾町からは新たに任命された 3 人に抱負を伺いました。



「養成講座を終えて」

CK

養成講座を受けてみませんかとお話をいただいた際、勉強する機会と思い受講することにしました。受講期間終盤、実習見学として施設に入所されている方を訪問した折、ご聖体を待ち望まれている信仰のお姿に感動しました。私たちが教会の出来事を話すと、楽しそうに聞いてくださいました。偶然にも、その方のご自宅は私の会社から10メートル程しか離れていない所とわかり、深い

ご縁とともに、必要とされていると感じました。

数か月の講座の中で、ご聖体の大切さを様々な角度から考える機会を与えられましたが、「聖体の秘跡」の力を病者の方への訪問で実感しました。子どもの頃から、日曜日のミサに与れば、ご聖体をいただけていると思っていることを申し訳なく思いました。

昨年帰天した母の病床にも、神父様に何度も来ていただきました。その度に、状況を受け入れる力をいただき、母だけではなく、私たち家族の安らぎ

にもなりました。現在、夫の母も教会に通うことが難しい体調となり、三原教会の方々に訪問していただいています。

ご聖体の喜びの分かち合いを一人でも多くの方とできますよう、楽しみにさせていただきます。

「再び任命されて」

KI

早副神父さんとシスター小野島の指導のもとに1996年度から始まった聖体奉仕者養成コース(当時の名称)も今年で17回を迎えました。確か2年目(2期生)に任命を受け、毎回緊張しながら厳粛なミサでの聖体奉仕の任務を中心に働かせて頂きました。

広島教区での養成コースのスタートまでに2～3年間の準備期間があり、当初からスタッフとしても関わらせて頂きましたので、任命期間以外でも毎年養成を受けられる方々の真剣な使命感や任命前の不安感を同じように受け止めてまいりました。

この度17期の受講者として2回目の任命を受けることになりましたが、15年の時が流れていますので、その間に多くの奉仕者が築かれてきた実践

の歴史の重みの前で、全く新しい緊張感に包まれこの日を迎えています。今回はごミサでの奉仕と共に病者へご聖体をお持ちする任務もあるかと思っています。至らぬ者ですがよろしくお願いいたします。

「突然の声かけ」

JT

ある日の午後電話がなった。出てみると「私は、幟町教会の後藤です」…えっ！私、何か失敗？したかな(オルガンの事？平和行事の演奏会の事？等々)と、神父様から電話を受けたことのない私は、そう思いました。「驚いていると思いますが、今回、聖体授与の臨時の奉仕者養成コースに参加し、奉仕者になってくれませんか？」と言われ、私は本当に驚き、戸惑いました。私はとてもそんな人間ではないので(何も経験ないし、何も出来ないし)・・・と言いました。すると、神父様は、「これは、私が言っているのではなく、神様からの伝言です。何も無いから・・・それで良いんですよ」そうか！と変に納得！こんなことで話が進みました。

それから暫くして、養成委員会から資料を受け取り、ワァ～

～私大丈夫かしら？と思いながら、数回の養成コースに参加し、今でもドキドキしながら準備している状態です。

「心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くし・・・」祈りとともに進もうと思っています。少しでもちゃんとお仕事ができるよう、みなさまのお祈りのお力をおかりしたいです。よろしくお願い致します。



健やかな成長を願って

健やかな成長を願って、11月11日のミサ中に七五三を迎えた子どもたちの祝福を行いました。



編集後記

クリスマスには私たち信徒だけではなく、一般の方も荘厳なクリスマスを過ごしたいと、幟町教会に毎年来られると耳にしたことがあります。日曜日には一緒に来ることがないご家族やお友達も、今年はぜひ誘ってみてください。(か)



12月からの行事予定

- 12/9(日)†待降節第2主日
教会掃除、高齢者の集い
日曜学校待降節黙想会
- 12/14(金) みことばの分かち合い
- 12/16(日)†待降節第3主日
日曜学校クリスマス会
- 12/20(木) 祈りの集い(18:30 地下聖堂)
- 12/21(金) 愛宮ラサール座禅会(19:00 地下聖堂)
- 12/23(日)†待降節第4主日
高齢者の集い
- 12/24(月) 主の降誕前夜ミサ(18:00、20:00)
- 12/25(火) 主の降誕祭の夜半ミサ(0:00)
†主の降誕ミサ(10:00)
- 12/30(日)†聖家族
- 1/1(火)†神の母聖マリア
平和祈願ミサ(0:00、11:00)
- 1/6(日)†主の公現
クリスマスの後片付け
- 1/11(金) みことばの分かち合い
- 1/13(日)†主の洗礼
高齢者の集い
- 1/18(金) 愛宮ラサール座禅会(19:00 地下聖堂)
- 1/20(日)†年間第2主日
10分間掃除、日曜学校授業
- 1/24(木) 祈りの集い(18:30 地下聖堂)
- 1/27(日)†年間第3主日
高齢者の集い
日曜学校授業